編集後記

アンケート調査を実施すると，それまで見えなかったものが見えてくる。自由記述のコメントにおける利用者の叱責等は期待の裏返しという部分もある。今回の図書館サービスの質を評価するLibQUAL＋®（ライブカル）の実施は，慶應義塾大学メディアセンターがLibQUAL＋®の英語での質問を日本語化し，それを使っての実施であり，まさに日本におけるLibQUAL＋®実施の先陣を切ったことで，今後とも大いにPRしていきたい。北米研究図書館協会（ARL）でLibQUAL＋®責任者のMartha氏から，今回の実施に対してコメントをもらえたことも，大変意義のあることであった。本誌が国内におけるLibQUAL＋®のバイブルとなり，LibQUAL＋®を導入しようと考えている国内の多くの大学図書館の参考に供することができ，さらに実際に調査に参加して，相互に比較検証できるようになることを願っている。ちなみにARLでは，以前から図書館組織の気風等についての職員の評価を調査するためのツールを開発していたが，それが“ClimateQUAL”として，2009年から導入されていることを付け加えておく。なお，慶應義塾大学メディアセンターは，2006年度，2007年度の2年間，LibQUAL＋®の日本における普及にむけて，私立大学図書館協会から研究助成金を得たことを，この場を借りて感謝したい。

慶應義塾大学メディアセンターの「中期計画2006―2010」も既に後半戦にはいった。各地区メディアセンターにおいてもそれぞれ特色ある取り組みを実施しており，タイムリーで多様な記事をそろえたのでお読みいただきたい。なお，中期計画の中間評価については，2009年度当初にまとめ，公開した（http://www.lib.keio.ac.jp/jp/headquarter/pdf/interim-evaluation.pdf）。2011年度以降の次なる中期計画の策定において，今回のLibQUAL＋®の実施結果は，言うまでもなく重要な材料である。

慶應義塾大学では，2009年5月28日から清家塾長体制が始まり，メディアセンターの担当常任理事には，それまで文学部長であった長谷山教授が就任し，巻頭言への寄稿をいただいた。大所高所から，メディアセンターの運営にアドバイスをいただけるように，我々も日々精進していきたい。

（村上　篤太郎）

誌名変遷

八角塔		：1号（昭42(1967)．7）－　6号（昭45(1970).3）
KULIC	（ISSN 0913-0705）	：1号（昭45(1970).10）－ 26号（1992.11）
MediaNet	（ISSN 0919-8474）	：No. 1（1993.11）－